

自己の体験と読みを連動させながら「主体の論理」を伝え合う授業の構想 —第6学年「人が心を動かされるとはどういうことか考えながら読もう」『たずねびと』の実践—

羽島 彩加

1 はじめに

文学的文章を読む際に、読み手であるわたしがテキストをどう解釈したかを伝え合う中で、〈他者〉の読みと出合い、自己の読みが更新され、自己の読みが再構築される。自己の読みは、テキストに内在する何かに対して自己の共感あるいは違和感によって引き込まれ、テキストと自己を同化あるいは異化し、テキストと対話しながら形作られると考える。その読みは、根拠はテキストにありながらも、読み手の思考の中で解釈された「主体の論理」であり、その「主体の論理」を〈他者〉と伝え合う中で、自己の読みが深まり、〈他者〉を楽しみながら学びを深めることができると考える。

そこで、本稿では、文学的文章において、テキストを読む際に、それぞれが自己の体験と読みを連動させながら「主体の論理」を語り、それぞれの読みを構築していく授業を構想し、実践、考察する。

2 自己の体験と読みの連動を生み出す年間カリキュラム

本単元で自己の体験と読みの連動を生み出すために、国語科で自分の読みを伝え合うということと生活や学習の中で自己の体験を蓄積する年間カリキュラムを立てた。

国語科の読むことにおいては、人の思いに迫るため、伝記、読書、物語と文種を超えて読みを交流する単元を積み重ねた。また、どの単元においても、戦争の中をどう生きたかというテーマが共通していることにより、比較しながら読みを深めることもできるようにした。さらには、総合学習「ヒロシマについて語ろう」において、『たずねびと』に出てくる場所を巡ったり、ヒロシマの実相を学んだりして、体験と結びつきやすいような学習を行った。

第5学年	前期	後期	
国語科	【伝記を読む】 「人がどう生きて何を伝えようとしたかに迫ろう—伝記と作品を読み、作家の考え方について語り合おう—」	【ヒューマンライブラリー】 「ヒロシマを生きる人になる」	【物語を読む】 「人が心を動かされるとはどういうことか考えながら読もう『たずねびと』」
総合学習	「ヒロシマについて語ろう」		

表1 自己の体験と読みの連動を生み出す第5学年「読むこと」年間カリキュラム

3 本校国語科の研究と本単元の位置づけ

本校国語科の「論理」を切り口とした国語科実践のうち、本単元は、高学年の文学的文章を「読むこと」の実践である。

本単元は、自己の体験と読みの連動をさせながら、物語の中心人物に同化した読みと、一般化して異化した読み、俯瞰した読みを行い、「人が心を動かされるとは」という単元の問いに迫らせる。そして、単元を通して、自分と「ヒロシマ」について捉えなおし、メタ的視点の獲得を目指す。

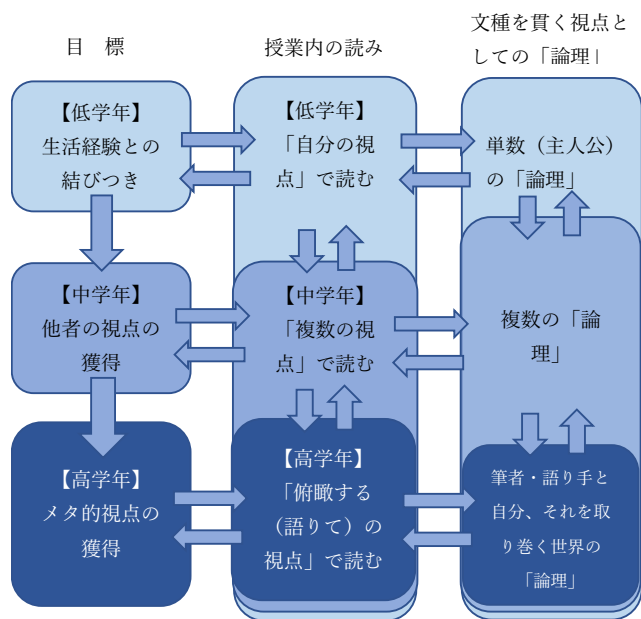


図1 「論理」を切り口とした国語科「読むこと」の要素の関係図

4 単元デザイン

本単元は、「人が心を動かされるとはどういうことか考えながら読もう」という単元で、「たずねびと」を教材とした文学的文章を読むことの単元である。本教材は、戦争が終わって何十年も後の戦争を知らない世代で学習者と同年齢の少女が、自分と同じ名前が書かれたポスター（原爆供養塔納骨名簿）をきっかけに広島原爆で亡くなった人へ思いをはせていくという物語である。本単元では、「人が心を動かされるとはどういうことか」ということを考えながら読むために、中心人物である「綾」が何に心を動かされているか、その心がどんな行動を生み出しているか、その行動で心はどのように変容しているかと、心と行動の連鎖を読んでいきたい。さらには、前単元の「ヒロシマを生きる人になる」の学習でヒロシマについて聞いたことやそれをもとに口承したこととつなげながら自分自身の経験と人物を重ねたり比較したりしながら同化した読みの再構築を狙う。

本学級の児童は、これまで文学的文章を読むことにおいて、構造を読むことや朗読することなど、異化して読むことを通して人物がどのように変容したかを客観的に読むことを行ってきた。また、前単元の「ヒロシマを生きる人になる」で、口承する経験をしていたり、単元に入る前にヒロシマの実相を知るための総合学習を行っていたりしてきた。しかし、今回の学習のように、同年代で自分と重ね合わせながら同化して読むことを久しくしていない。そのため、人物の心情を捉えるために自分と同化したり、客観的に全体を捉えるために異化したりしながら読むことに向かい、「人が心を動かされるとはどういうことか」ということに迫らせた。

本単元の指導にあたっては、第1次の導入で題名読みをする中で、前単元「ヒロシマを生きる人になる」や総合学習の「ヒロシマについて語ろう」の学びを想起させ、その際に出会った人やもの、見たり聞いたりしたことと、本単元の物語の設定に関係あることに気づかせる。そして、教材文を読み、初読の感想を書き、単元の見通しを持たせる。第2次では、「人が心を動かされるとはどういうことか」を考えながら読むために、中心人物である「綾」が心を動かされているところについて「ポスターの中の『楠木アヤ』」、「『名前しか分からない人』を探す旅」、「おばあさんとの関わりによって心にかび上がってきたもの」の観点で読み深めたい。第3次では、「たずねびと」を読む中で中心人物が名前を介して「ヒロシマ」を見つめたように、学習者が自分自身と「ヒロシマ」について考え、どう捉えるようになったかをまとめ、読みを通して自分と「ヒロシマ」のつながりを自覚させるような単元にしたい。

5 本単元の目標

- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。【知識及び技能】
- 登場人物の行動や描写、人物同士の関係から、心情を捉え、人の心が動かされる様子を読むことができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 文章を読んで考えたことを伝え合おうとすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

6 単元計画（全6時間）

第0次 ヒロシマについて総合学習で学んだことを話し合う。

第1次 題名読みをして「たずねびと」を読み、心に引っかかったことを感想に書く。・・ 1

第2次 人が心を動かされるとはどういうことか考えながら読む。・・・・・・・・・・・・ 3

- ① ポスターの中の「楠木アヤ」。
- ② 「名前しか分からない人」を探す旅。（本時）
- ③ おばあさんとの関わりによって心にかび上がってきたもの。

第3次 「たずねびと」の綾と自分を比較して考えたことをもとに自分と「ヒロシマ」についてまとめる。・・ 2

7 本時について

(1)本時の目標

- 「名前しか知らない人」を探し続ける行動や気持ちについて話し合い、人物の心情の変化を読むことができる。

(2)本時の学習過程

(3 / 6)

学 習 活 動	指 導 の 意 図 と 手 だ て	評 価 の 観 点 と 方 法
1 前時の学習を想起する。	○前時の学習「ポスターの中の『楠木アヤ』」における綾の心の変化を想起させる。	●前時の学習について前時の記述や友達の話から想起することができる。
2 本時の学習課題をつかむ。	○本時の学習課題を提示する。	
「名前しか知らない人」を探し続ける綾の心情について考えながら読もう。		
3 「名前しか知らない人」を探す過程について読む。	○綾の辿った道を地図上で確認させ、かなりの時間や体力を使っていることに気づかせる。 ○綾の行動や気持ちが分かるところで気になる記述に線を引かせる。(5場面・6場面) ○線を引いたことを児童から引き出し全体で考えさせることを集約する。 ○言葉を並べてみたときに感じた綾の心情を書き込ませる。	●中心人物と対人物の行動や心情を捉えながら自分の読みを構築させることができる。
4 「名前しか知らない人」を探し続ける綾についての考えを交流する。	○綾の体力的な疲労や精神的な疲労を想像させた上で、それでも「名前しか知らない人」を探し続けたのはどうしてかについて考えさせる。 ○交流する中で、綾の一連の行動や人との関わりなど、児童の考えの根拠となっていることを分類し、心にとどまり続ける「名前」や言葉や行動で支え続ける兄の様子について読みを追究させる。	●自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、自己の読みを深めることができる。
5 本時をまとめる。	○本時の学習で学んだことの振り返りを書かせることで自分の読みを自覚させる。	●本時の学習の振り返りを書くことができる。

8 本時の授業の実際

本時は、第2次「人が心を動かされるとはどういうことか考えながら読む」のうち、第1時で中心人物の綾がポスターの中の「楠木アヤ」に心が捉われているのはどうしてかということを読む学習の後の授業である。

授業の導入場面では、前時を想起させた後、綾が通った場所を地図上で辿り、本時の課題である「名前しか知らない人」を探し続けたことに対する関心を高めた。そして、5場面と6場面の中で綾が「アヤちゃん」を探し続けている時の心情が分かるところを抜き出させ、交流させた。そこで児童が挙げてきた記述は次の通りである。

場面	記述	挙げた理由
5 場面	<ul style="list-style-type: none"> ・「本当なんです。あなたは知らなかったの。」と問いかけてくるような気がした。 ・一十四万人って、校庭の頭の数の二百倍だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「一応、行ってみようか。」と言っているぐらいだから、アヤちゃんの手がかりをもしかしたらつかめるかもしれないと思ったから。 ・一発の爆弾でその命が失われたと聞いてびっくりするのもあるけど、それよりも、自分がそんな感情をもったことがなかったから、すごく悲しい。

<p>6 場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うちのめされるような気持ちのまま、…… ・「個人を検索できる記念館があるみたいだ。」と声をはげまして言った。 ・わたしはつかのま、その子と見つめ合ったが、…… ・とぎれなく現れ続ける顔をずっと見つめていたら、気が遠くなりそうだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うちのめされるくらいショックを受けていると分かるから。 ・綾さんは、ポスターの中のアヤちゃんを探しに来ていて、見つけようとがんばって張りきってきてたけど、弁当箱や三輪車、石段に残る人の影を見てすごく悲しそうになって変わってきているから。 ・アヤちゃんじゃないのに、全然知らない人なのに、その写真とずっと向き合うということは何か考えてしまっている。 ・綾さんが見たときにたくさんの人が見つからないということがショックだった。
-------------	--	---

交流した際、綾が「アヤちゃん」を探し続ける時の心情を見つけていく中で、その他の原爆の被害を受けた人ことでショックを受けていることに気づいていった。

そこで、「アヤちゃん」のことではなく、違う人のことで心を動かされる綾について追及した。

T： どうして探している人とは違う人のことで、心を動かされているの？

C： 人がちがったとしても、アヤちゃんもそんな目にあったかもしれないと思ったら、心が痛むのかなと。

T： 同じように探している人にも起きたんじゃないかと。

C： このわたしは、まわって見ているうちに、今まで知らなかった原爆の実相とかを次々に知ったからアヤちゃんだけでなく、他の人にも痛い目とかにあったことが分かって、他の人だけどかわいそうという思いが強くなった。

C： 「楠木アヤさん」と名前と年齢まで一緒に親近感がある人がひどい目にあったり、その14万人の中の一人なんだと思うと悲しくなったりした。

C： 同じ人間に起きたことで、今までは知らなかったけど、現実を受け止めなきゃなと思ったらショックをうけたんじゃないかな。

T： なるほど。この知るということは、こういうことを通して、こんな風に思いが変わるといことね。こんな風にいろいろなたくさんの人が、一発の原爆によって、亡くなってすごく悲しいことが分かった。もういないかもしれないし、すごくショックを受けている。じゃあやめよう。これが普通です。やめたの？

C： やめない。

T それでも続けたのはどうしてか。その理由はなんだろう。

—ノートに書く・考えを伝え合う— (中略)

C: アヤちゃんはだれも迎えにこないから、それだったら迎えにきてあげなきゃ、何としてでも探し出して迎えにいったらいいなと思ったから続けたんだと思う。

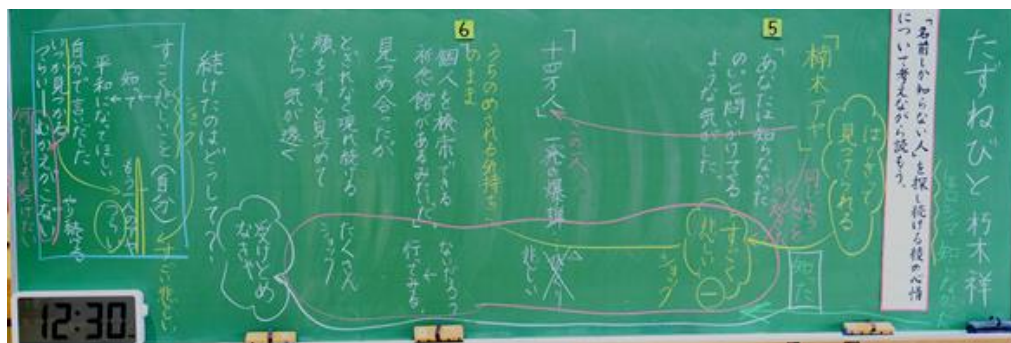
T: なるほど。

このように、綾の心情の変化を追究したところ、「探し続ける」ということの意味を考えることにつながった。振り返りには、次のような記述があった。

・綾ちゃんは、資料館を見学してとてもつらい気持ちになったけど、声をかけられている気がしたこと、知らないといけないという気持ちになった。旅をしたい、続けたいと思った度合いは上がって、資料館のときに下がって、また上がった。

・心情は、場所によって違い、平和記念資料館や、追悼平和祈念館などでは悲しい気持ちで、供養塔ではアヤちゃんの気分を受け継いでいこうという気持ちに変化したと考えた。

・原爆について知るために、ヒロシマに来た私の心情の変化が伝わってきた。追悼祈念館での主人公が、思いをふせて、悲しみにひたるところも心情が伝わってきた。けっきょく、アヤちゃんは、もういないけれど、アヤちゃんに教えてもらったことはたくさんあると思う。



9 考察

図2 本時の板書

本時の授業では、中心人物の心情の変化を捉えるために、場所を辿り、その時の様子から心情を考え、「探し続ける」ということについて追究した。そこで、人物がその場所でどんな心情かを想像し、人物が場所を移動し、「探し続ける」ことが何によって起こっているかを考えることで、心情の変化に気づいたり、どのようなことによって心が動かされたかを考えたりすることにつながったと考える。

10 おわりに

本単元は、第2次の読みを生かし、第3次の「自分」と「ヒロシマ」について考えることで学習を終えた。読みを通して過去と現在をつなぐ考えをもつことで、「自分」を取り巻く世界の「論理」に迫る一実践ができたが、自分の体験と読みの連動についてのカリキュラムは、もう少し他の実践を重ねる必要があると考える。